

子どものヒトパピローマウイルス感染は母親から

ヒトパピローマウイルス（以下、HPV）は子宮頸がんや咽頭がん、陰茎がんなどの原因となり、小児に感染がみられるが、その感染経路については完全にはわかっていない。本研究では小児の HPV 感染について調査した。

フィンランドの HPV 研究に参加した小児 331 例を対象に唾液のサンプルから 24 種類の HPV 遺伝子型の有無を調べた。唾液サンプルは、出生時から 6 歳までに 9 回採取した。結果、HPV 感染率は 8.7%（36 カ月時）から 22.8%（出生時）まで幅があり、HPV 遺伝子型は 18 種類確認された。最も多かった遺伝子型は HPV16 型で、次いで 18 型、6 型、33 型、31 型の順に多かった。

今回の結果から、小児は早期から口腔内に HPV の感染が認められることがわかった。また、母親の HPV への感染状況が子への HPV 感染に大きく影響することが示唆された。

出典：Emerging Infectious Diseases. 2021; 27(3): 759-766.